

会 議 名	令和6年度第4回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開 催 日 時	令和7年1月20日（木）18時30分～20時00分		
開 催 場 所	市立はけの森美術館 多目的講義室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 原田隆司委員 畑島一代委員 平田勇治委員 中川法子委員		
欠 席 委 員			
事 務 局 員	コミュニティ文化課文化推進係 津端 佐原 同 はけの森美術館学芸員 中村、五木田 同 はけの森美術館学芸顧問 河合		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由		傍聴者数	0人
会 議 次 第	（1）事業報告等 （2）意見交換 （3）その他、次回日程調整等		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	資料1 教育事業報告 資料2 日程表		

【鉄矢会長】 それでは、令和6年度第4回小金井市はけの森美術館運営協議会を開催したいと思います。

最初に、資料の確認を事務局よりお願いいたします。

【事務局】 事務局です。

事務局より資料の確認をします。次第のほか、資料の1、2、3の3点ございます。大丈夫でしょうか。

以上になります。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

では、次第にのっとって進めていきたいと思います。

まず、次第の(1)事業報告等、よろしくお願いします。

【中村学芸員】 実施した展覧会・教育普及事業等という資料1の1のところから報告させていただきます。こちら、学芸員の中村が報告いたします。

まず、1)展覧会ですけれども、こちら「富永親徳という近代洋画家がいた一記録と場所をたどる」という、これは第3回の運営協議会のときに既に実施して会期がスタートしておりましたけれども、こちらの会期が1月13日で終了いたしました。こちらの入館者に関しましては、資料の1、中ほどに示しましたとおりで、総計で2,209人という形で、当館の企画展といたしましては、久しぶりに2,000人台に乗った形になっております。例年、コロナ禍以前は、秋の展示に関しましては、2,000人台に上がることが多かったのですが、コロナ禍になってから以降は、なかなかこの2,000人というところに乗らずに来ましたので、久しぶりに大分入館者数としては戻ってきたかなという印象です。

一方で、こちら、減免というところを見ていただきますと分かるように、児童と大人、合わせて800人弱の入館者減免で入っておりますけれども、こちらは鑑賞教室が実施されて、鑑賞教室関連で訪れた人の人数というのが大部分を占めております。市内9校から小学校4年生が来ておりますので、ここがあるか・ないかというところで大きな差が出てくるところも確かでございます。

展覧会の関連企画としましては、こちら、前回報告以降実施したものについて記載しております。

①の水彩画ワークショップ、こちらはアニメの背景画を手がける講師による背景画テクニックを使った水彩画のワークショップというふうに記載しておりますが、2014年と

記憶しておりますけれども、牟田いずみさんというアニメーションの背景を実際にやっておられる、手がけておられる方を講師に招いて、背景画の技法を学ぶというワークショップを始めたということなのではございますけれども、そこからこの牟田さんに継続的に水彩画のワークショップをお願いしていたのです。

ただ、牟田さんのほうのお仕事の都合ですとか、あとそれからコロナ禍というのもありまして、ここ数年はちょっと牟田さんにこのワークショップを手がけていただくということができなかったのですが、今回久しぶりに、12月の7日に、中学生以上に向けてという形で実施をいたしました。

こちら定員15人というふうに募集をかけまして、期日までのところで12人の申込みがありました。ここの申込みに関しましては、牟田さんのほうからは、できれば10人ちょっとのほうで指導のやり方としては、やっぱり15人というのは結構厳しいので、10人ちょっとでどうかなとありがたいというふうに言われていたので、ここは、実は初日の申込み数が結構多かったのですが、はらはらしていたのですが、最終的には、講師の希望どおりの人数というような形になりまして、こちらの部屋で牟田さんに指導してもらって、それから牟田さんと、実は飛び入りという形で、さめしまきよしさんという、これは今、Amazonプライムで配信されているのかと思うのですが、『ルックバック』というアニメーション映画の背景美術のほうの監督を務められ、担当を務められた方も飛び入りで参加してくださいまして、その2人を、11人の人が、講師として、アニメーション背景の塗り方とかそういうのを学ぶという形になりました。

午後1時から3時というふうに予定していただいていたのですが、結構この時間いっぱい皆さん集中して取り組んでくださいまして、非常に濃度の濃いというか、集中した本当に密度の濃いワークショップになっていました。

ここから、年が明けて1月11日、展覧会開始から終了の2日前ではございますけれども、ここはちょうど3連休だったので、3連休の初めの土曜日のところで、「石川欽一郎と台湾」という特別レクチャーを行いました。

この特別レクチャーには、府中市美術館学芸員の志賀秀孝先生に来ていただきまして、こちらの志賀先生には、今回の展覧会の図録のほうにも文章をお寄せいただいているのですが、文章のほうで言及していただいている内容をさらにこちらのトークのほうで補足、充実させていただくというような、そういった形でトークを行いまして、こちらのトークも、こちらは定員20人のところ、当日飛び入りでいらした方もいて、最終的には

22人の参加の方がいらしたのですけれども、非常に好評でして、志賀先生のほうも言いたいことがすごくたくさんあって、最後のほうは結構もう時間が足りなくなって駆け足になってしまったのですけれども、まだまだ内容を知りたかったとかそういう、非常にアンケートの結果としては関心の高さがうかがえるようなものになりました。

ギャラリートーク3番目、③のところですが、こちらは12月の14日に行いまして、ギャラリートークは既に1回、同じく図録のほうに文章を寄せてもらった埼玉県立近代美術館の西尾さん、ここの美術館で学芸員を務めていらした西尾さんですが、西尾さんの回に続いて12月14日に行いまして、こちらの参加人数は8人ということになっております。

続きまして、2)の鑑賞教室も続けて中村より報告させていただきます。

企画展の会期中に、市立小学校4年生の鑑賞教室、全9校で実施しておりまして、3回の段階で、前半の4校が恐らく終了した状態でした。その後2024年中に、11月29日から12月20日までで残りの5校が行われました。

スケジュール的には資料を見ていただくと分かりますように、ほぼ毎週金曜日、どこかの学校が来ているという形になりました。正直こちらとしては、いっぱいいっぱい状態で鑑賞教室をやっていくことになったので、そういったところでの人員の厳しさというのもございました。そこで、鑑賞教室の実施補助をしてくれるボランティアを東京学芸大学に依頼し、周知募集いたしました。

その結果、美術館での教育普及活動とかそういったものについて、調べているという院生の方から応募がありました。この院生の方ボランティアでフォローに入ってくれまして助けを借りつつ、ここにありますが全5校の日程、無事に終了いたしました。

ということで、ここまでの実施した展覧会とそれから鑑賞教室等に関しましては、以上です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

ここまでで、今後に入る前で、ここまでで御質問等ありますでしょうか。

【原田委員】 原田です。

質問ですが、2,000人を越えたという大変喜ばしい数字となっていますが、富永親徳さんは知られていないし地味な絵ですね。なのに、これだけ来たというのは、学芸員さんとしては、勝因は何だと思われますか。

【中村学芸員】 そうですね。説明が遅れてしまったのですけれども、資料3のほうに、

今回の富永親徳展のアンケート集計結果を入れています。今回、アンケートの回収枚数417枚で、当館の企画展の回収枚数としては、かなり枚数が多くなっているのですけれども、これをちょっと集計してみた結果、今回来る動機は少し見えるかと思いますので、こちらの説明をさせていただきます。

今回来館の動機としては、「作品・作者に興味があるから」と「たまたま通りかかって」というのがツートップですが、それに次いで「その他」も100人以上の回答数があります。この「その他」はスペース的な問題で、別紙記載というところの「その他」の記載が入れられなかったのですが、何が「その他」に書かれていたかということ、「アサココ (asacoco)」というタウン誌の記事を見て来ようと思ったという人が結構多かったのです。この「アサココ」に関しては、Q3、何で開催を知りましたかというところの新聞・雑誌というところの回答面のところにも、「アサココ」というふうに入れている人が何人かいました。実は開催が始まってすぐに、「アサココ」という朝日新聞の折り込みで入ってくるフリーのタウン誌のほうから取材がありまして、こちらの取材の方が、展覧会のチラシだけではなく作品も載せてくれたり、あと富永親徳に関するちょっとした説明も、こちらの取材の結果という形で載せてくれました。割合そういったものを見て、やっているというのを知って、来ようと思ったという人が今回どうも多かったようです。

それ以外に、「たまたま通りかかって」、これが実は一番、回答数的には多いのですけれども、これが非常に多くなっているというのは、これは恐らく紅葉の時期にかかったからというところが非常に大きいと思います。

紅葉の時期に、結構団体で、グループでこの辺りを散策している人たちが多くいるので、そういった人たちがグループで入ってくると、10人とかそういう規模で入館者数が増えますので、恐らくここの「たまたま通りかかって」というところが多くなっているというのは、これは紅葉が主因だと思います。

「作品・作者に興味があるから」というところに関しては、最後のQ5のところのお気づきの点、御意見・御感想というところともちょっと関連するのですが、台湾に興味があるとか、ルーツとして自分のおじいさん、おばあさんが台湾にいたことがあるとか、そういう人ですね。

ということで、そのあたりの複合的な要因で、今回、来館する人が増えたかなというふうに見ております。

【原田委員】 ありがとうございます。

【鉄矢会長】 そのほか。

私から質問いいですか。これのカタログの54、55ページのいろいろな作品に書いてあるグレーの楕円は、これは何が……。

【中村学芸員】 これは志賀先生の図版ですね。実は、台湾のほうで発行された雑誌の挿絵ですが、これがちょっと変わっていて、手前に人の写真が写って、肖像写真の背後に背景として水彩画が挿絵として入っているという組合せになっているものです。

富永親徳の著作権等に関しては、掲載はクリアしているのですが、手前に写っている人に関しては、ちょっと誰だか分からなくて、その人の肖像権がどうなっているかというところが……。

【鉄矢会長】 富永さんが写っているわけではないのですよね。

【中村学芸員】 そうです。全然知らない人が写っているので、ちょっとそういうところで。

【鉄矢会長】 何か写っていたのだろうなと思ったけれども、何を消しているのか、どこにも脚注に書いていないので。

【中村学芸員】 ちょっとどういう人かも分からないので、そこだけまるで消した状態になっております。

【鉄矢会長】 了解です。

では、その他なければ、2番の今後の展覧会・教育普及事業のほうにお願いします。

【五木田学芸員】 それでは、2、今後の展覧会・教育普及事業等につきまして、学芸員の五木田より御説明させていただきます。

1) 展覧会、所蔵作品展「ナカムラケンイチのシン人物画鑑賞」、会期が3月23日から5月18日でございます。

開館時間が、午前10時から午後4時30分、入館は4時まで。休館日が月曜日と火曜日、4月30日、5月7日、5月8日で、4月29日、5月5日、5月6日の祝日は開館いたします。観覧料が一般200円、小・中学生100円、未就学児及び障がい者手帳をお持ちの方、その付添いの方1名は無料でございます。主催が小金井市立はけの森美術館でございます。

概要は、昭和時代に活躍した中村研一の人物画の魅力を再発見する展覧会となります。2025年は中村研一の生誕130周年、小金井に移住されてから80周年、そして今年は「昭和100年」ということで、この記念の年に当館が所蔵する名品約30点を「肖像

画」、「婦人像」、「裸婦像」の三部構成で紹介する計画となっております。

この展覧会の概要のところの開館時間、休館日につきましては、従来と大きな変更がございますので、このところは御留意いただく必要がございますが、これについては何か補足説明、事務局からございますか。よろしいですか。

【事務局】 開館の時間とか曜日については、条例で決まっているものなのですが、条例を今回改正したというところではなくて、試行的にこの時間で試してみようというような取組でやっております。なので、まだ条例自体はそのままの状態です。

以上です。

【五木田学芸員】 ありがとうございます。

続きまして、次のページに移りまして、関連企画を御説明します。

ギャラリーコンサート、これは「はけの森に響く音 レオナルド・ブラーボ ギター・コンサート」、3月22日土曜日の午後1時30分から午後3時15分。定員が40名で、多数の場合は抽選になります。料金は1,000円、対象は小学生以上。申込み期間が、3月1日から12日となっております。

もう一つの企画が、文化財登録5周年記念「中村家のお茶会 和菓子とお茶を愉しむ」、日時が3月30日の日曜日の、第1回目が午前10時半から11時45分（子供の部）、2回目が午後1時から午後3時で（大人の部）と分かれまして、内容が、午前中が和菓子とお茶をたのしもう、茶室を見学しよう。2番のほうで、講座「和菓子とお茶の話し」・お茶会、こうなります。

定員が各回12名で多数の場合抽選です。料金が500円。対象は、午前中が小学1年生から3年生、保護者同伴。午後が大人の方、小学4年生以上。講師は、元虎屋文庫、文庫長をなさっていた丸山良先生です。申込み期間が3月1日から12日となります。

それから、ギャラリートークが2回ございまして、4月12日と4月26日の2回、土曜日の午後2時からと計画しております。

今回、無料開館日に当たる月が含まれておりまして、例年行わせていただいております中村研一の誕生日5月14日を記念して無料開館日を設けます。今回は、御相談しまして、誕生日の3日前に当たる5月11日の日曜日を無料開館日とさせていただきます。

それから、次の2番に移りまして、外部企画等ですが、これは例年の催しでございますので、本年も行われます。宮地楽器ホール友の会のファンミーティング「美術鑑賞&ティータイムを楽しむ会 in はけの森」と題しまして、3月21日金曜日の午後2時から

行います。主催が、小金井宮地楽器ホールさん。定員が18名です。

もう一つは、国分寺市の元町公民館さんによる「はけの森美術館にいこう」、日時が3月25日火曜日の午後1時30分から、主催は国分寺市の元町公民館さんで、定員が20名となります。

簡単ですが、以上で、この展示の概要を御説明させていただきました。何か御質問等ございましたらお願いいたします。

【鉄矢会長】 ありがとうございました。質問です。

【原田委員】 原田です。

2つ目の関連企画のお茶会ですが、これは場所が書いてないですけども、これはあれですか、お茶室でやるのでしょうか。

【五木田学芸員】 この文化財登録5周年という、記念のイベントですよ。午前中のお子さんの部はこちらの会場で最初のイベントを行った後、その後移動して、お茶室を外から見学するというそういう流れになります。2番の午後のほうは、大人の方を対象に、お茶室の中で、実際にお茶を丸山先生がたてていただいて、それを楽しんでいただくと。

【原田委員】 講座も含めて、お茶室の中で、花侵庵で。

【五木田学芸員】 講座はここですよ。講座はこの場所でやって、それで、お茶会だけ茶室と。

【原田委員】 12人も入れるのですか、茶室は。

【五木田学芸員】 これは2回やります。6名で2回です。

【原田委員】 分かりました。

【五木田学芸員】 ですので、最初こちらで講座をお聞きになって後から行かれる方と、先になさる方と、じゃなかったでしたか。

【女性A】 展示室を見学される、先に。

【五木田学芸員】 展示室ですね。そうです、すみません。展示室を見学されていてから、こちらに合流される。

【原田委員】 花侵庵の中で、実際お茶を飲むのは初めてでしたっけ。前にもやりましたか。

【女性B】 まだ財団の頃とかは、茶室のほうを貸出しとかもしていたので、実際にお茶とかは以前はやっていたと思うのですけれども、美術館のほうに寄贈されて以降というのは、やられたことはないですね。

【鉄矢会長】 基準法上、何か問題があった、問題があつて、高さが足りないとかあつた中で、これは取りあえず、試してみるというような位置づけでやることになるのですか。

【事務局】 建物内で実際の火が使えないという問題が一つございまして、コロナの直前ぐらいに電熱器というものを買いました。電気で温めるようなタイプのものですね。風情がと言われてしまえば、それまでなのですけども、今そちらを買って、ちょうどこれから活動していこうかというところです。コロナで飲食イベント自体が開けないまま少し時間が過ぎて、ここで初めてそれを活用しようかなという。

【鉄矢会長】 電熱器はいいのですか。

【原田委員】 釜の中に電熱器を入れてしまうわけですか。

【事務局】 そうですね。

【原田委員】 釜の外、畳の上。

【鉄矢会長】 釜の中に、旅行用のあの電熱器をぼそって入れたら嫌ですよ。

ちなみに、関連企画の1番目のギャラリーコンサートなのですけども、「ナカムラケンイチのシン人物画鑑賞」との関連というつもりがあるのでしょうか。はけの森美術館との関連としてギターというのは。

【事務局】 これは出演者の選出は、ホールの方になります。ギターも少し珍しいタイプです。

【鉄矢会長】 多分悩んでこれを入れたのだと思うのですけれども、ほかからも、うちもやってくれたっていいじゃないか、って言われたときに困らない状況にしておくために何か基準をとっているのです。

【事務局】 ギャラリーコンサートに出演していただく方は、宮地楽器ホールの方に選出をお任せしているという状況なので、こちらから基準を作るのは少し難しいかと思っています。ホールの担当者の方がうちの企画と何か絡めてくだされば、そういった方が来てくださったり、ここの雰囲気だったりとか、展示室の響きと合うような楽器みたいなところで選んでくださったり。お部屋自体はちょっと狭いので、音量の出るような楽器はちょっとあまり向かないとかで楽器の選択をさせていただいているというところもございまして……

【鉄矢会長】 すみません、話途中で、これは、宮地楽器ホールのある意味、学芸員みたいな方の選定ということですね。

【事務局】 そうですね。

【鉄矢会長】 宮地楽器ホールの学芸員みたいな方との連携というか、こういう企画をこういうふうをお願いするというのは、いつ頃から始まったのですか、というのをちょっと明らかにしておいたほうが、そうすると、こういう人が選定しているからというふうに、小金井市の文化施設ですから、これはこういうところで、企画を投げているというのがしっかりできていればいいと思います。

【事務局】 ありがとうございます。

【鉄矢会長】 学芸員ではなく、何か別の名前なのか。

【事務局】 把握しておらず申し訳ございません。

【学芸顧問】 今はいろいろマネジメントの講座だとか大学でもあると思うのですがけれども、そういうのを受けられた方だとは思うのですよね。実際ちょっとしゃべって見た限りでは、いわゆる我々が言うところの専門職としての学芸員という感じではないのです。むしろマネジャー的な。お分かりだとは思いますがけれども、芸能プロダクションなんかに入っているような、そういう現場を習得されているという方だと思います。

それで、質問以上のことを言ってしまうかもしれませんが、できるだけ小金井在住で、活躍している人というのを配慮してくれているようです。

【鉄矢会長】 そうですか。

【学芸顧問】 昨年も親子のハープとバイオリン奏者の方でしたね。

【鉄矢会長】 なので、その方の肩書もちゃんと明記してあげて、小金井市のネーミングライツされた宮地楽器ホールの中の〇〇さんという、〇〇という立場の方が選定しているというのにお任せしているところがあるとか書けるといいと思いました。

【事務局】 ありがとうございます。

【原田委員】 このレオナルド・ブラーボというグループなのですか。

【事務局】 いえ、お一人です。

【原田委員】 お一人で。この方は宮地楽器ホールでもコンサートをやるのでしょうか。

【事務局】 宮地楽器ホールでもやったことがある方です。

【原田委員】 今、先ほど、先生がおっしゃったように2つの文化施設が連携してやるというところに意味があると思うので、別に展覧会とか絵に直接関連する必要は僕はないと思うのですね。この2つの文化施設が力を合わせて1つのイベントをやりますと。すると、宮地楽器ホールのPRにもなるし、当然この美術館のPRにもなる、という効果があるのではないかなと思いました。

【事務局】 ありがとうございます。

【鉄矢会長】 その他、御質問ございますでしょうか。

【山村委員】 山村です。

展覧会のタイトルが「ナカムラケンイチのシン人物画鑑賞」、この「シン」というのは、エヴァンゲリオンの庵野さんのシン・仮面ライダーとかシン・ゴジラと引っかけているのだらうと推測するのですが、中身でいうと、内容が、肖像画、婦人像、裸婦像って新しいと思うのですが、これは何か新しい解釈とか、あるいは、本当真実の人物画はこうだとか、そういうところは何か、五木田さんの狙いがあるのでしょうか。

【五木田学芸員】 おっしゃるとおりなのです。先生のおっしゃるとおりです。このシンは、新しいという字も当てられるし、真実の真という字も当てられるでしょうし、本質のこのペンの芯じゃないですけれども、そういう芯も当てられるでしょうし、見る方によって、中村研一さんの絵画の本質的なものをこういうふうに感じるのだということを分かっていたらという思いでつけさせていただいたのと、あと、漢字で見ていると、いつも中村研一って目になじんでいるので、ちょっと目先を変えてみたいなという思いもありまして、この片仮名を使いました。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

そのほか、ございますでしょうか。

では、（３）番、その他。

【事務局】 次の日程を決めさせていただけたらいいなと思っております。次の展覧会が、３月の２３から５月の１８という日程でやっております。

次は新年度の１回目の委員会になりますので、期間としては、４月以降に実施をお願いできればと思います。

作品があるうちにぜひ委員会のほうを行って、皆さんにも見ていただけたらいいなと思うのですが、新年度とても最初のお忙しい時期にはなるのですが、皆様いかがでしょうか。

【鉄矢会長】 ４月１６日はいかがでしょうか。

【事務局】 みなさま大丈夫そうですね。

【鉄矢会長】 ４月１６日１８：３０で決定します。ありがとうございます。

そのほか、ございますでしょうか。

【原田委員】 一つよろしいでしょうか。

2月の8日に、宮地楽器ホールで「まちのアートスポットの新しいあそびかた」というイベントがありまして、宮地楽器ホールとはけの森美術館、2つの遊び方を考えようというワークショップです。20人くらい集まって、私も行ったのですが、私は、はけの森美術館のチームに入りまして、このくらいの10人ぐらいで話をしました。

その中に、韓国で児童心理学といったかな、を教えている大学の先生が、サバティカルイヤーというのでしょうか、学芸大の国際センターで生活している、御夫婦で参加されていたのです。大変流暢な日本語で大変活発に発言されていて、その中で、お二人の御夫婦の提案が面白いなと思ったのは、2つあるのですけれども、一つが、中村研一という人の経歴とか人となりが分からないので、いつ行っても分かるようにしたらどうですかと。つまり、例えばロビーにビデオが流れているとか、パネルがあるとか、展覧会的时候は簡単なあれがあるのだけれども、もうちょっとちゃんと知りたいというような提案がありました。なるほどそうだなと思って。それこそ展覧会をやっていないときでも、あそこへ行ったら、ロビーでそのビデオが見られるとか、そういうようなことができるといいなと思いました。

それから2つ目の案が、絵バトルと言っていましたけれども、ビブリオバトルってありますよね。自分の好きな本を。美術館で、その絵版をやったらどうかと。語呂が悪いけれども、絵バトルがとおっしゃっていました。とにかく、みんなが一押しの絵を語り合うと、美術館らしいイベントになるのではないかと。

それで10人で話しておられた中で、それだったら中村研一総選挙ができますねと。戦争画、風景画、南方の風景、人物画、裸婦、奥さんの絵、花とか、ジャンルを分けて、私はこのジャンルでこれが一番好きですとかいうのを、みんなでバトルをするということもできるかなということで、韓国のお二人の提案から話が盛り上がりました。いずれも、何か実現したら面白いなという話だったので、御紹介しました。

以上です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

そのほか、ございますでしょうか。

では、なければ、以上をもちまして、小金井はけの森美術館、令和6年度第4回の運営協議会のほうを閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

—— 了 ——